陸連時報

2019 令和元年 8月号

題字は平沼亮三（初代陸連会長）の書

目　　次

公益財団法人日本陸上競技連盟　評議員・理事・監事・専門委員長・顧問…… 198

評議員会・理事会報告…… 199

IAAF世界リレー 2019横浜大会報告（専務理事 尾縣貢）…… 202

RUNNING WEEK 2019…… 204

セイコーゴールデングランプリ陸上2019大阪・デカチャレ報告（普及育成委員会 岸政智）…… 208

IAAF世界リレー 2019横浜大会プレイベント（強化育成部普及事業課）…… 209

2019数字で見る陸上競技Vol.1　都道府県公認競技会数…… 210

大会観戦ガイド…… 211

陸協NEWS…… 213

事務局からのお知らせ…… 214

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものでありますが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

公益財団法人日本陸上競技連盟　評議員・理事・監事・専門委員長・顧問

【評議員20名】

任期：2019年6月14日から2023年の定時評議員会の終結の時まで

評議員会議長	中曽根弘文			
評議員会副議長	松本　正義			
評　議　員	五十嵐　徹	渡邊　方夫	平塚　和則	北澤　晴樹
	吉井　道昭	赤名磨差己	高木　三朗	岡田　　晃
	上村　佳節	舟橋　昭太	安藤　宏基	伊藤　静夫
	大田　弘子	繁田　　進	髙野　　進	西川晃一郎
	坂東眞理子	増田　明美		

【理事30名】

任期：2019年6月14日から2021年の定時評議員会の終結の時まで

会　　長	横川　　浩			
副　会　長	友永　義治	八木　雅夫		
専務理事	尾縣　　貢			
理　　事	橋本　秀樹	三浦　武彦	齋藤　　宰	木内　俊秀
	高木　良郎	藤垣　晴夫	新谷　誠規	黄倉　寿雄
	野中　　悟	竹内　　章	浜﨑　正信	藤岡　英陽
	串間　敦郎	大西　清司	麻場　一徳	清水　　真
	小手川強二	鈴木　一弘	山本　　浩	山澤　文裕
	瀬古　利彦	平田　竹男	高橋　尚子	室伏　広治
	有森　裕子	河野　太郎		

【監事3名】

任期：2019年6月14日から2019年の定時評議員会の終結の時まで

監　　事	山田　浩一	前島　伸行	室城　信之

【専門委員長】

任期：2019年6月17日から2021年の定時評議員会の終結の時まで

総務企画委員長	尾縣　　貢
強化委員長	麻場　一徳
法制委員長	清水　　真
財務委員長	小手川強二
競技運営委員長	鈴木　一弘
指導者養成委員長	山本　　浩
施設用器具委員長	高木　良郎
科学委員長	杉田　正明
医事委員長	山澤　文裕

【顧問6名】

任期：2019年6月17日から2023年の定時評議員会の終結の時まで

顧　　問	河野　洋平	帖佐　寛章	佐々木秀幸	渡辺　泰造
	櫻井　孝次	田中　　嵩		

評議員会・理事会報告

第54回理事会
日時：2019年5月28日（火）
14時00分～16時43分
場所：ハイアットリージェンシー東京
28階 「スカイルーム」

【議事内容】

理事総数30名中出席者26名にて、理事会の成立を風間事務局長が報告。横川会長が挨拶し、引き続き、議事進行に入る。

〈協議事項〉

1．第8期事業報告・決算報告

尾縣専務理事より事業報告について、小手川財務委員長より決算報告について、室城監事より監査報告について、それぞれ資料に基づき説明があり、ともに原案通り承認された。

（**資料1**及び本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/pdf/about/rikuren/disclosure/8report.pdf参照）

2．特定費用準備資金等の取り崩しについて

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、資産取得資金として積立を行っていた「事務所移転等引当預金」を取り崩すことが原案通り承認された。

〔取り崩し金額〕 830,000,000円

〔取り崩しの理由〕

2019年6月上旬の「JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE」への事務所移転に伴い、都内の土地購入及び建物建築の計画は2025年度まで実施する見通しはないため。

3．2019年度主要競技会日程

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、第24回世界ハーフマラソン選手権大会（グディーニャ／ポーランド）が2020年3月29日（日）に開催されることが原案通り承認された。

4．普及育成委員会の改組

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、従来の「普及育成委員会」を「指導者養成委員会」に改組することが原案通り承認された。

5．専門委員会運営細則の改正

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、「普及育成委員会」が「指導者養成委員会」に改組されることに伴う、「専門委員会運営細則」の改正が原案通り承認された。

〔改正箇所〕＿＿＿＿＿＿部分改正

第2条（専門委員会）

定款第46条に定める専門委員会は、総務企画委員会、強化委員会、法制委員会、財務委員会、競技運営委員会、指導者養成委員会、施設用器具委員会、科学委員会、医事委員会とし、各専門事項に関する会務を処理する。

第6条（所管事項）

（6）指導者養成委員会

1）指導者養成のための講習･研修会の開催、調査研究、広報活動等に関すること

①指導者養成システムおよび指導者の資格制度に関すること

②資格保有指導者の専権事項に関すること

③指導者の養成に関する事業の企画に関すること

④指導者のための情報提供等の啓発活動に関すること

⑤指導者の研修・養成のための調査・研究に関すること

⑥指導者のための研究紀要、教本の編集、作成に関すること

⑦その他、指導者の養成に関すること

2）陸上競技の普及のための講習・研修会の開催、調査研究、広報活動等に関すること

①小学生、ジュニア競技者を対象とした陸上競技への導入、動機づけの方策に関すること

②ジュニア競技者の育成に関する調査・研究に関すること

③陸上競技愛好者および国民に対する陸上競技およびスポーツの普及・振興に関すること

④地域クラブ育成の全国展開の方策に関すること

⑤陸上競技の普及のための調査・研究に関すること

⑥その他、陸上競技の普及に関すること

6．評議員・役員・専門委員等の旅費・謝金規程の改正

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、国内出張の旅費において、特別急行列車を運行する線路による旅行で指定席特急料金を適用できる距離を70kmから60kmにする「評議員・役員・専門委員等の旅費・謝金規程」の改正が原案通り承認された。

7．主たる事務所の変更

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、2019年6月10日、小田急第一生命ビルに置く主たる事務所を「JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE」に変更することが原案通り承認された。

〔建物名称〕JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE
〔住所〕〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
〔最寄り駅〕東京メトロ銀座線駅外苑前駅3番出口徒歩6分、都営地下鉄大江戸線国立競技場駅A2出口徒歩9分、JR千駄ヶ谷駅徒歩15分
〔広さ〕906・907・908号室：581㎡
〔業務開始日〕2019年6月10日（月）

8．ドーハ2019世界陸上競技選手権大会トラック＆フィールド種目日本代表選手選考要項の改正

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、「ドーハ2019世界陸上競技選手権大会トラック＆フィールド種目日本代表選手選考要項」の改正が原案通り承認された。

〔改正箇所〕＿＿＿＿＿＿部分改正

9．東京オリンピックの内定条件

本大会で、個人種目において3位入賞以上の成績を収めた日本人最上位の代表選手で、本大会終了時点で東京オリンピックの参加標準記録を満たしている者を東京オリンピック日本代表選手に内定する。また、世界選手権終了時点までにオリンピックの参加標準記録を満たしていない場合は、2020年に開催される該当種目の日本選手権終了までに参加標準記録を満たした時点で内定する。

（選考要項の全文は、本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/files/upload/201812/18_144136.pdf参照）

9．東京2020オリンピック競技大会マラソン日本代表選手選考要項

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、「東京2020オリンピック競技大会マラソン日本代表選手選考要項」が原案通り承認された。

（**資料2**及び本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/files/upload/201905/29_154049.pdf参照）

〈報告事項〉

1．IAAF世界リレー2019横浜大会報告

尾縣専務理事より大会全体について、麻場強化委員長より日本代表選手団の成績について、資料に基づき報告された。男子４×400mリレー及び男女混合４×400mリレーでドーハ2019世界陸上競技選手権大会の出場権を獲得し、男女混合２×２×400mリレーで３位、男女混合シャトルハードルリレーで２位に入った。

2．香港2019アジアユース陸上競技選手権大会報告

3．オーフス2019世界クロスカントリー選手権大会報告

4．ドーハ2019アジア陸上競技選手権大会報告

麻場強化委員長より資料に基づき、2019年３月15日から17日まで香港にて行われた2019アジアユース陸上競技選手権大会で金6、銀8、銅6のメダルを獲得、3月30日にオーフスにて行われた2019世界クロスカントリー選手権大会でU20女子６kmにおいて銅メダルを獲得、４月21日から24日までドーハにて行われた2019アジア陸上競技選手権大会にて金５、銀４、銅９のメダルを獲得したことが報告された。

5．ドーハ2019世界陸上競技選手権大会20km競歩日本代表選手

麻場強化委員長より資料に基づき、ドーハ2019世界陸上競技選手権大会20km競歩日本代表選手として、男子、髙橋英輝（富士通）、山西利和（愛知製鋼）、池田向希（東洋大学）の３名、女子、岡田久美子（ビックカメラ）、藤井菜々子（エディオン）の2名を選考したことが報告された。

6．2019年度JOCナショナルコーチ等及び専任コーチ等

尾縣専務理事より資料に基づき、2019年度のJOCナショナルコーチ、JOCアシスタントナショナルコーチ、JOC専任コーチングディレクター（ジュニアアスリート担当）、JOC専任コーチングディレクター（NTC担当）、JOC専任メディカルスタッフ（トレーナー）、JOC専任情報・科学スタッフが報告された。

なお、非公開において、「ドーハ2019世界陸上競技選手権大会50km競歩日本代表選手」が報告され、また、「ドーハ2019世界陸上競技選手権大会マラソン日本代表選手」、「評議員選定委員会に推薦する次期評議員候補者」、「定時評議員会に推薦する次期役員候補者」を協議し、原案通り承認された。

定時評議員会

日時：2019年6月14日（金）
15時00分～16時42分

場所：小田急第一生命ビル　11階　貸会議室

【議事内容】

評議員総数20名中出席者14名にて、評議員会の成立を鈴木管理部長が報告。中曽根評議員会議長が挨拶し、引き続き、議事進行に入る。

〈協議事項〉

1．第8期事業報告・決算報告

尾縣専務理事より事業報告について、小手川財務委員長より決算報告について、前島監事より監査報告についてそれぞれ資料に基づき説明があり、ともに原案通り承認された。

（**資料1**及び本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/pdf/about/rikuren/disclosure/8report.pdf参照）

なお、非公開において、任期満了に伴う今期の「理事及び監事の選任」を行い、原案通り承認された。

（本号198頁参照。）

評議員会（非公開）

日時：2019年６月14日（金）
15時～16時42分

場所：小田急第一生命ビル　11階　貸会議室

【議事内容】

評議員総数20名中出席者15名にて、評議員会の成立を鈴木管理部長が報告し、引き続き、議事進行に入る。

〈協議事項〉

任期満了に伴う評議員改選により今期の評議員会議長及び評議員会副議長が承認された。

（本号198頁参照。）

第56回理事会（非公開）

日時：2019年６月17日（月）
13時32分～14時01分

場所：日本青年館ホテル
８階 「カンファレンスルーム イエロー」

【議事内容】

理事総数30名中出席者24名にて、理事会の成立を風間事務局長が報告し、引き続き、議事進行に入る。

【議題】

〈協議事項〉

1．会長・副会長・専務理事、代表理事・業務執行理事の選定
2．専門委員長の選任
3．顧問の選任
4．常勤理事の報酬

上記の協議事項が承認された。（今期の会長、副会長、専務理事、専門委員長及び顧問は本号198頁参照。）

【資料1】公益財団法人日本陸上競技連盟
第8期収支決算書（対前年度）

（2018年4月1日から2019年3月31日まで）

（単位：円）

科　目	第8期決算額	第7期決算額	増減
経常収益			
1．基本財産運用収益	6,094,820	5,319,561	775,259
2．登録料受入収益	27,224,000	26,710,050	513,950
3．加盟金受入収益	4,700,000	4,700,000	0
4．受取寄付金	20,000,000	10,000,000	10,000,000
5．受取委託金・助成金	475,818,077	360,921,685	114,896,392
6．事業収益	1,695,561,486	1,702,000,072	△ 6,438,586
7．その他事業収益	48,155,674	52,646,249	△ 4,490,575
8．雑収益	5,755,543	13,750,303	△ 7,994,760
経常収益計	2,283,309,600	2,176,047,920	107,261,680
経常費用			
9．事業費	2,160,237,650	1,921,320,332	238,917,318
10．管理費	114,696,042	95,245,650	19,450,392
経常費用計	2,274,933,692	2,016,565,982	258,367,710
当期経常増減額	8,375,908	159,481,938	△ 151,106,030

【資料2】　東京2020オリンピック競技大会マラソン日本代表選手選考要項

1．編成方針

本大会において最大限持てる力を発揮する「調整能力」と世界と戦う「スピード」を有し、メダル獲得を目指す競技者から日本代表を編成する。

2．選考競技会

（1）マラソングランドチャンピオンシップ（以下「MGC」という。）
2019年9月15日（日）開催

（2）MGCファイナルチャレンジ
1）男子
・第73回福岡国際マラソン選手権大会
・東京マラソン2020
・第75回びわ湖毎日マラソン大会

2）女子
・第5回さいたま国際マラソン
・第39回大阪国際女子マラソン大会
・名古屋ウィメンズマラソン2020

3．選考基準

編成方針に基づき、以下の優先順位により、日本代表選手を選考する。

（1）MGC優勝者
（2）MGC2位の競技者
（3）MGCファイナルチャレンジ設定記録を突破した記録最上位の競技者。ただし、MGCシリーズ※1に出場（完走）、又はMGC出場資格を有することを条件とする。
（4）選考基準（3）を満たす競技者がいない場合、MGC3位の競技者

4．MGCファイナルチャレンジ設定記録

（1）記録
男子：2時間5分49秒
女子：2時間22分22秒

（2）対象競技会
MGCファイナルチャレンジ（男子３大会、女子３大会）

5．選考方法

（1）選考基準（1）、（2）による選考は、MGCレース終了時点において、即時内定とする。
ただし、MGC終了時点で本大会の参加資格を満たしていない場合は、資格を満たした時点で内定となる。

（2）選考基準（3）及び（4）による選考は、MGCファイナルチャレンジの男女それぞれの全指定競技会終了時点において、即時内定とする。ただし、男女それぞれの全指定競技会終了時点において、本大会の参加資格を満たしていない場合は、資格を満たした時点で内定となる。
MGCファイナルチャレンジ設定記録を突破した記録最上位の競技者が、異なる競技会において複数（同タイム）出た場合は、MGCファイナルチャレンジにおける順位、レース展開、タイム差、気象条件等を総合的に勘案し、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会で選考し、理事会において決定する。ただし、その場合、MGCの出場資格を有した競技者を優先する。

6．補欠競技者

（1）選考基準（3）により代表選手が選考された場合
MGCで3位及び4位の競技者を補欠として選考する。

（2）選考基準（3）により代表選手が選考されなかった場合
MGCで4位及び5位の競技者を補欠として選考する。
※ただし、上記補欠競技者が辞退した場合は、MGC上位の競技者を補欠として選考する。

7．補欠競技者の解除について

国際オリンピック委員会及び国際陸上競技連盟（以下「IAAF」という。）が定めるエントリー手順により、補欠の入れ替え及び補欠の解除の期日を決定する。

8．その他

（1）本大会の参加資格に係る参加標準記録有効期間は、2019年1月1日から2020年5月31日まで。
（2）本大会の参加資格に係るワールドランキングは、2020年6月3日にIAAFより発表される。
（3）代表選手は、編成方針及び選考基準に則って選考されるが、その派遣人数はIAAFが定めるエントリー数の上限の枠を保証するものではない。
（4）代表選手は、派遣団体である公益財団法人日本オリンピック委員会が正式決定する。
（5）代表選手は本連盟が定める義務を遵守するものとする。
（6）下記の項目に該当する場合は、代表を取消すことがある。
1）アンチ・ドーピング規則に反した場合
2）故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合
3）本連盟が定める義務を遵守しない場合
（7）代表選手の決定から本大会までの期間が長いことに配慮し、ファイナルエントリーまでに正選手に故障などが生じた場合は、補欠が正選手となり本大会に出場する。
（8）天災、その他の理由で選考競技会が中止になった場合は、代替の選考競技会を設定する場合がある。
（9）本大会は、2020年7月31日～8月9日まで東京で開催される。

※1　MGCシリーズ

【男子】
・第71回及び第72回福岡国際マラソン選手権大会
・東京マラソン2018及び2019
・第73回及び第74回びわ湖毎日マラソン大会
・第67回及び第68回別府大分毎日マラソン
・北海道マラソン2017及び2018

【女子】
・第3回及び第4回さいたま国際マラソン
・第37回及び第38回大阪国際女子マラソン大会
・名古屋ウィメンズマラソン2018及び2019
・北海道マラソン2017及び2018

IAAF世界リレー2019横浜大会報告

専務理事　尾縣　貢

2014年にバハマ・ナッソーで幕を開けた世界リレーは今回で４回目。継続開催が決定していたバハマが開催不可能となり、急遽、横浜市で第4回大会を開催することになりました。横浜開催が決定してから、わずか半年の準備期間での開催でした。横浜市、神奈川県陸上競技協会、全国から参集いただいたNTO（National Technical Official）の皆さま、補助員の任に当たってくれました大学陸上競技部の皆さんを始め多くの方々に多大なるご協力をいただきましたことを心から感謝申し上げます。そして、寝る時間も削りながら、国際陸上競技連盟（IAAF）との交渉や大会の準備に当たってくれました日本陸上競技連盟事務局員の頑張りを心から称えます。

本大会は、IAAF「ワールド・アスレティックス・シリーズ」に位置付けられたリレー種目の世界の頂点を決める最高峰の競技会です。９月にカタール・ドーハーで開催されるドーハ2019世界陸上競技選手権大会の出場権獲得の場でもあり、強化戦略上も極めて重要な競技会となりました。また、来年に迫った東京オリンピック・パラリンピック競技大会の審判に当たるNTOの研修としても格好の機会となりました。加えて、世界リレーを通して、陸上競技のみならずスポーツ全般に対する国民の関心を高め、さらなるオリパラ気運の醸成につながったイベントであったと自負するところです。

この大会では､多くのご来賓に観戦をいただきました。高円宮妃殿下には土曜日にご来場いただき、温かく競技を見守っていただきました。スポーツ庁長官の鈴木大地様、JOC会長の竹田恒和様、横浜市長林文子氏を始め多くの方にご観戦いただきました。

◆大会の概要

大会報告を**資料１**に示しています。5月11日（土）・12日（日）の２日間にわたる競技会で、男子３種目、女子３種目、混合３種目の合計９種目が実施され、44カ国・地域から選手673名、役員332名、合計1005名の参加がありました｡男女のオリンピック種目に加え､シャトルハードルリレー、2×2×400mリレーの新種目が導入されました。このIAAFの新しい取り組みは、陸上競技の普及、そして見せる陸上競技の確立を目指したものであると言えます。

連夜の競技は、TBSによりゴールデンタイムで放映していただき、土曜日の視聴率（関東）は14.0％を獲得しました。これは、週間視聴率で６位、スポーツ部門では大相撲初日を抑えトップ。リレーの人気の高さ、潜在力の大きさを感じたものでした。また、日産スタジアムに足を運んでいただいた観客数は、土曜日15,424人、日曜日20,746人になりました。大声援、そしてスタート前の静寂、その強弱は陸上競技観戦の醍醐味であると思えました。リレーをスタジアムで、テレビで観ていただいた方は、自身のリレーにまつわる思い出を持っておられたことでしょう。運動会の学級対抗リレー、地域の運動会のリレー、授業でのリレー、棒切れをバトンにした遊びでのリレー、いろいろな機会にチームの勝利を目指して仲間でバトンを繋いだ思い出が脳裏に浮かんだことでしょう。身近であるということ、これもリレー競技の強みであると言えます。

◆プレ・イベント

12日（日）の18時からは、第29回オリンピック競技大会（2008/北京）男子4×100mリレー順位変更に伴うメダル授与セレモニーを開催しました。これは、昨年12月7日、国際オリンピック委員会より優勝のジャマイカチームのアンチ・ドーピング規則違反が確定したという通知を受けて、メダルセレモニーをこの場に設定したものです。メダルは、IAAF会長のセバスチャン・コー氏から授与されました。授与後、４名を代表して挨拶をした朝原宣治氏の「銀メダリストとしてふさわしい人間として生きていきたい」というコメントが印象に残りました。１走・塚原直貴氏、２走・末續慎吾氏、３走・高平慎士氏、４走･朝原宣治氏の快挙を祝福するとともに、彼らの益々のご活躍を祈念いたします。**写真１**

このメダルセレモニー以外にも両日の競技会前に、Seiko Presents 4×100mリレー＆TDK Presents 4×100mリレー、メディアレース、Asics Presents キッズデカスロンチャレンジなどの幾つかのプレ・イベントを実施しました。4×100mリレーは6組。そのうちの2組は神奈川県、東京都の小学生によるレース。4組は一般から募集により参加チームを選定しましたが、36枠に187チームの募集ありました。同様に小学生対象のキッ

写真1　メダル授与セレモニーの様子

ズデカスロンチャレンジ100枠には650名もの応募があったということで、普及イベントの人気と需要の高さをあらためて知ることができました。

このうちのデカスロンチャレンジは、普及育成委員会のメンバー中心に行いましたが、メダリスト朝原宣治氏と末續慎吾氏、そして100m、100mハードル、4×100mリレーでオリンピック及び世界陸上競技選手権での７つの金メダルを保持する大会アンバサダーのゲイル・ディバース氏（USA）も加わっていただき、温かく情熱的な指導を展開していただきました。参加した子どもたちにとっては夢のような時間であり、素晴らしい思い出になったことでしょう。**写真２**

メディア・リレーもユニークな取り組みでした。普段の立場を忘れて、疾走しバトンをつなぐ姿は、心からの拍手を送る気持ちにさせてくれました。リレーを通しての交流で、これまでと異なる親近感が得られたことでしょう。日本陸連からの３名の精鋭の事務局員、そして100m日本選手権者・江里口匡史氏（大阪ガス）を加え、ドリームチームを結成。雰囲気を読まない圧勝の走りには、ブーイングに近い歓声が湧きました。

写真2　デカスロンチャレンジの様子

いくつかの課題は残りましたが、強化戦略における十分な成果を上げることができましたし、東京オリンピック・パラリンピックに向けた審判員の課題の洗い出し、審判能力の向上につなげることができました。あらためまして、ご支援ご協力を賜りました全ての方に心からお礼を申し上げます。

【資料1】　IAAF世界リレー2019横浜大会　報告

1．大会名称	IAAF世界リレー2019横浜大会
2．主催	国際陸上競技連盟
3．主管	日本陸上競技連盟
4．共同主管	横浜市
5．運営協力	神奈川陸上競技協会
6．後援	読売新聞社
7．IAAFパートナー	株式会社アシックス、カタール国立銀行、 セイコーホールディングス株式会社、TDK株式会社
8．IAAFサプライヤー	モンド
9．ナショナルパートナー	アース製薬株式会社
10．ナショナルサプライヤー	株式会社セレスポ、東武トップツアーズ株式会社
11．期日	2019年5月11日（土）～5月12日（日）
12．場所	横浜国際総合競技場（日産スタジアム）
13．種目	9種目（男子3種目、女子3種目、男女混合3種目） 男子3種目（予選・決勝）：4×100mリレー 4×200mリレー 4×400mリレー 女子3種目（予選・決勝）：4×100mリレー 4×200mリレー（決勝のみ） 4×400mリレー 男女混合3種目（予選・決勝）：4×400mリレー シャトルハードルリレー 2×2×400mリレー（決勝のみ）
14．TBS放映	5月11日（土）：19：00～20：50（BS）／20：50～22：00（地上波） 5月12日（日）：18：30～21：00（地上波）
15．入場者数	5月11日（土）：15,424人 5月12日（日）：20,746人 総入場者：36,170人
16．エントリー数	44チーム　選手673人、役員332人、合計1,005人（5月11日現在）

SBF SPORTS BOOK FAIR

RUNNING WEEK 2019 presents

「走る」を考えるためのブックフェア

2019/6/1-2019/6/9 at Aoyama Book Center

初のランニングウィーク開催を記念して、「走る」という行為について改めて深く掘り下げてみたい。というわけで今回、スポーツ専門のブックフェア・SBFは、様々な分野から「走る」で連想されうる書籍を集めてみました。本と関わりのあるランナーたちに訊いた「あなたにとって『走る』とは？」とあわせて、ここに紹介します。

スポーツ国家アメリカ
中公新書／鈴木透

スポーツライフスタイル先進国といえば米国。現地で起こっていることを観察しながら、どのように日本でアダプテーションしていくか。発展的なインスピレーションを得るための入門書です。

スポーツ雑誌のメディア史
勉誠出版／佐藤彰宣

昭和初中期、スポーツは今よりも教育的な側面が強く、スポーツ雑誌はその啓蒙的役割を果すべく存在していた。行間から、当時のメディア人が抱いていた純粋で野心的な使命感が立ち現れてくる。

オルタナティブロックの社会学
花伝社／南田克也

本書で述べられている「ロックとスポーツの関係性」についての考察は、スポーツが音楽やファッションなど異分野と交流していく上での思想的なお手本であり、重要な手がかりでもある。

遊びと人間
講談社学術文庫／ロジェ・カイヨワ
（訳：多田道太郎、塚崎幹夫）

日本では教育的な文脈で発展してきたスポーツ（体育）に対し、本来の遊戯性を取り戻そうという運動が絶えないのは、本書がスポーツを学んだ者にとって聖書であり続けてきたことに起因します。

スポーツとは何か
講談社現代新書／玉木正之

本書では、スポーツを取り巻く状況・問題について包括的に記述されています。いわゆる「スポーツ論」を大掴みにできるので、本書をきっかけに気になったテーマを他書で深掘りしてみましょう。

トリップ
光文社文庫／角田光代

特別なことは何も、常に特別な形をしてやってくるものではない。走ることで得られるトリップ感を文学で表現すると、この小説の質感に近くなってくるのではないだろうか。

自由からの逃走
東京創元社／エーリヒ・フロム
（訳：日高六郎）

「自由」の意味を履き違えてしまうと、個人や社会はあらぬ方向に突っ走ってしまう。概念としての自由に囚われてはならない。大事なのは逃げ続けること、そのための脚力を日頃から鍛えておくこと。

疾走（上・下）
角川文庫／重松清

抜けるような青空の下を気持ちよく走っていると、それは正に疾走という感じがするけれど、きらめく沼のごとき絶望から逃れるために走ることもまた、「疾走」というニュアンスに合致する。

伴奏者
講談社／浅生鴨

視覚障害のある選手＝他者のために「走る」、この感覚、感情ははたしてどのようなものか。自分と向き合う行為として挙げられることが多い「走ること」への、斬新な視点を与えてくれる一冊。

ランナー（シリーズ）
幻冬社／あさのあつこ

「走る青春小説」といえば、今なら真っ先にこの小説のタイトルが頭に浮かぶ。碧李というナイーブな部活ランナーの葛藤が刻まれた傑作シリーズ。当然だが、体育や部活も悪い面ばかりではない。

オリンピック全史
原書房／デイビッド・ゴールドブラット
（訳：志村昌子、二木夢子）

1896年、アテネで開催された第1回近代オリンピックにおいて初めて正式競技となり、全競技の中でも特に高い人気を誇ったマラソン。その起源を知るにはうってつけの一冊です。

江戸の飛脚一人と馬による情報通信史
教育評論社／巻島隆

江戸時代に街道を駆け抜けた飛脚の知られざる全容に迫る書。学位論文がベースのため簡単には読み進められないが、従来の飛脚のイメージを一新するような内容にワクワクさせられる。

黄色いベスト運動——エリート支配に立ち向かう普通の人びと
ele-king books: Pヴァイン
ele-king編集部編

ランニング姿の男性がモチーフとなった絵がプロパガンダに使用されたことがあるフランスの「黄色いベスト運動」。ブルーカラーたちの怒りの矛先は、どこに向いていたのか。その実態を議論する。

スタンフォード式 最高の睡眠
サンマーク出版／西野精治

ランニングが生活の質を向上させる「動」の要素であるならば、睡眠はその「静」の要素を担っていると言える。こちらは、「最高の睡眠」を得るための方法論が具体的に整理されたヒット本。

写真集：POCARI SWEAT
青幻舎／奥山由之

走る出すビジュアルが印象的なポカリスエットの広告写真は、広告とアートが交差していた時代を彷彿とさせる完璧な仕上がり。奥山由之が「天才」と称される所以がここに詰まっています。

RYAN MCGINLEY: WHISTLE FOR THE WIND
Rizzoli ／ライアン・マッギンレー

アイスランド発のポストパンクバンド・sigur rósのアルバムジャケットに使用されたことでも有名な「駆け出す裸の男女」の写真。そのイメージを「発明」したライアンの有名写真集。

走ることについて語るときに僕の語ること
文藝春秋 ／村上春樹

ランナーとしての側面もよく知られた村上春樹が書いたメモワール。小説を書くことについての多くを、走ることから学んできた—— 多くの人たちが共感しうる「走ること」についての金言が満載の書。

BORN TO RUN 走るために生まれた ウルトララランナー VS 人類最強の "走る民族"
NHK出版／クリストファー・マクドゥーガル（訳：近藤隆文）

「走るとなぜ脚が痛むのか?」、このシンプル極まりない疑問を、走る民族・タラウマナ族と紐解いていく本書。ニューヨークタイムズのベストセラーは、ランナーにとってもはや聖書の風格。

EAT&RUN 100マイルを走る僕の旅
NHK出版／スコット・ジュレク、スティーヴ・フリードマン（訳：小原久典、北村ボーリン）

「BORN TO RUN」の次に読むべきは、この本。ベジタリアンにして、数々のウルトラマラソンを走破したスコット・ジュレクが、「走るとは?」そして「生きるは?」を語る。

SHOE DOG——靴にすべてを。
東洋経済新報社／フィル・ナイト（訳：大田黒奉之）

近年、あらゆる距離のレースで圧倒的な結果を残しているナイキの創始者、フィル・ナイトの自伝。描かれているのは、輝かしいサクセスではなく、泥くさい失敗まみれの人間味あふれる物語。

「遊ぶ」が勝ち『ホモ・ルーデンス』で、君も跳べ!
中公新書ラクレ／為末大

「侍ハードラー」の異名を持ち、プロ陸上選手として闘ってきた為末大さん。苦しい時にはいつも、座右の書「ホモ・ルーデンス」が原点に引き戻してくれたという。

GO WILD 野生の体を取り戻せ! 科学が教えるトレイルラン、低炭水化物食、マインドフルネス
NHK出版 ジョンJ.レイティ、リチャード・マニング

現代特有のストレスから逃れ、健康と幸せを手に入れるためにライフスタイルを野生化させる、という趣旨の指南書。糖質制限、トレラン、マインドフルネスなど、実用的なアドバイスを多数掲載。

それからの僕にはマラソンがあった
筑摩書房／松浦 弥太郎

ランニング愛好家でありエッセイストの松浦弥太郎さんが、「走ること」について書いた本書。走る中で発見した「新しい人生との向き合い方」が丁寧な筆致で綴られています。

嘉納治五郎
潮出版社／真田久

柔道の父とも呼ばれ、日本のオリンピック初参加に尽力した人物、嘉納治五郎。JOC委員を務めた経験もある嘉納治五郎研究の第一人者・真田久がしたためたドキュメンタリー。

金栗四三 消えたオリンピック走者
潮出版社／佐山 和夫

2019年大河ドラマ「いだてん」でただいま話題沸騰中、箱根駅伝を創設した「日本マラソンの父」としても有名な金栗四三の生涯がカラフルに描かれています。はたして、「消えたオリンピック走者」の由来とは?

不滅のランナー人見絹枝
右文書院／田中良子

女性がスポーツを行うことすら奇異に見られていた時代において、数々の記録を打ち立て、陸上指導者として後継者育成に努めた人見絹枝。本書では、彼女の辿った道のりを写真と共に紹介。

限界を乗り超える最強の心身 チベット高僧が教える瞑想とランニング
CCCメディアハウス／サキョン・ミパム（訳：松丸さとみ）

著者は、瞑想を重視するチベット仏教の最高指導者であり、9つのフルマラソンを完走した超がつくランニング愛好家。自身の経験から、瞑想は心の、ランニングは体のエクササイズという。

孤独は贅沢——ひとりの時間を愉しむ極意
興陽館／ヘンリー・D・ソロー（訳：増田 沙奈、構成：星野響）

ランニングは孤独な時間とも捉えられる。そんな孤独を愉しむための極意が詰まったメッセージ集。ひとりの時間を楽しめるようになると、孤独はただの「寂しい時間」から「贅沢な時間」となる。

世にも奇妙なマラソン大会
本の雑誌社／高野秀行

この著者は、ネットサーフィン中にサハラ砂漠を走るマラソン大会を見つけ、深夜の酔ったノリでつい申し込んでしまう。そこでのタフな経験を通して、現地の文化や人間模様が軽快に描かれています。

走り方で脳が変わる!
講談社／茂木健一郎

走ることを通して「自分の人生を作り上げてきた」という茂木さん。最新の脳科学からわかったランニングの絶大な効果を語っています。重い腰を上げて走りはじめて継続していくコツも満載。

哲学者が走る: 人生の意味についてランニングが教えてくれたこと
白水社／マーク・ローランズ（訳：今泉みね子）

著者自身が50歳を目前に参加したマイアミマラソンの様子を振り返りつつ、過去の哲学者の言葉を引用しながら、「走ること」の人生に価値をもたらす"遊び"としての側面を語る。

走る?
文藝春秋／東山彰良、中田永一、崎友香、王城夕紀、佐藤友哉、遠藤徹、前野健太、古川日出男、岩松了、小林エリカ、恒川光太郎、服部文祥、町田康、桜井鈴茂

ずばり「走る」をテーマにした短編集。芥川・直木賞作家など豪華メンバーが参加し、様々な視点からランニングが表現に昇華されていく。「走ること」と文学性の相性が証明された一冊。

クレイジー・ランニング
現代書館／高部雨市

1964年の東京オリンピックから現在まで、代表的なランナーや監督・コーチ・メディア関係者などの証言によるマラソンのリアル。スポーツの本質にも迫る迫真の一冊。

RUNNING WEEK 2019

ランニングウィークは、世界中のより多くの人とランニングの楽しさを分かち合う日として制定された「グローバル・ランニング・デイ」を含む9日間、スポーツ以外のさまざまなカルチャーと「ランニング」が融合し、多種多様な"ランニング"の魅力に触れることのできるイベントプログラムです。

名称＝Running Week 2019、ランニングウィーク2019
主催＝日本陸上競技連盟、JAAF RunLink
期間＝2019年6月1日（土）～ 2019年6月9日（日）
Twitter >> @JRunlink #ランニングウィーク #runningweek2019

SBF

SPORTS BOOK FAIR（スポーツブックフェア）はスポーツに特化した本を軸に様々なものが集まる新しいブックフェアです。東京のユニークなスポットを拠点にして、それぞれにテーマを設けた展示を行なって行きます。

運営＝SPORTS BOOK FAIR事務局
Instagram >> @sportsbookfair

スポーツくじ

SBF SPORTS BOOK FAIR
AOYAMA BOOK CENTER / 6.1-6.9

What does RUNNING mean to you

Q. あなたにと

宇野常寛
〈評論家／『PLANETS』編集長〉

1978年生。著書に『ゼロ年代の想像力』（早川書房）、『リトル・ピープルの時代』（幻冬舎）、『日本文化の論点』（筑摩書房）、『母性のディストピア』（集英社）など多数。京都精華大学非常勤講師、立教大学兼任講師も務める。dTVチャンネル「NewsX」火曜日担当。

走ることがただ気持ちよくて、いつも無目的に走っています。タイムも気にしないし、疲れたら歩きます。だからこそ、走っているときが一番自由でいられます。僕が走るのは、いつもせいぜい5キロか、10キロくらいです。でもこの距離を走っているとき、僕はどんな国への旅よりも遠くにいける気がします。

走ることは、古来、人間の本能だ。しかしそのあり方には個性がある。短い距離をトコトコでもいいし、遠くまで一気にでもいい。走ることの脳のよろこびは、人の数だけかたちがあっていい。三日坊主でもいい。ランニングで脳の回路が深く静かに耕されていく。自分のやり方で走ること。それが私の人生だ。

茂木健一郎〈脳科学者〉

1962年生まれ。東京都出身。理学博士。東京大学理学部、法学部卒業後、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻課修了。理化学研究所、ケンブリッジ大学を経て現在に至る。専門は脳科学、認知科学。

子どもの頃からかけっこが好きで、高校まで陸上部だったため、走ることは日常の一部であり、運動といえば走ることであった。今でも毎朝走りにゆくが、それは季節の移ろいを感じ、心身の状態を見つめる貴重な時間でもある。こうして走れることは幸福なことだ。私は老いて走れなくなる日まで走っていたい。

若菜晃子〈編集者〉

大学卒業後、山と溪谷社入社。『wandel』編集長、『山と溪谷』副編集長を経て独立。山や自然、旅に関する雑誌、書籍を編集、執筆。小冊子『murren』編集・発行人。主な著書に『東京近郊ミニハイク』（小学館）、『東京周辺ヒルトップ散歩』（河出書房新社）、『徒歩旅行』（暮しの手帖社）、『地元菓子』『石井桃子のことば』（新潮社）、『東京甘味食堂』（本の雑誌社）など。最新刊は随想集『街と山のあいだ』（アノニマ・スタジオ）。

健全な日常を送り、人生を持続させていくための「インフラ」だと捉えています。

佐々木俊尚
〈作家／ジャーナリスト〉

1961年兵庫県生まれ。毎日新聞社などを経て2003年に独立し、テクノロジから政治、経済、社会、ライフスタイルにいたるまで幅広く取材・執筆・発信している。東京・長野・福井の三拠点を移動生活。

松島倫明
〈『WIRED』日本版編集長〉

東京都出身、鎌倉在住。編集者として世界的ベストセラー『BORN TO RUN』の邦訳を手がけて自身もトレイルトランナーとなり、5年前に鎌倉に移住して裏山をサンダルで走っている。『脳を鍛えるには運動しかない！』『GO WILD 野生の体を取り戻せ！』『マインドフル・ワーク』『NATURE FIX 自然が最高の脳をつくる』などで新しいライフスタイルとウェルビーイングの可能性を提示してきた。2018年6月より現職。最新号の特集は「Digital WELL-BEING」。

GO WILD、鎌倉、トレイル、自然に還ること、瞑想、禅、自分との対話、裏山散策、季節との対話、ひとりブレスト、二日酔い治療、ゴミ拾い、トレイル整備、接待、ミーティング、アイデア、リトリート、ヨロッコビール、サーフィン、稲村ヶ崎温泉、トレイル鳥羽ちゃん、コッパー・マフィア、仲間。

「いやいや、どれもこれもいけるっしょ」と思っていた人生が、45を過ぎた辺りで「終わりに向けてどう抗うか」に変わった頃から、朝に走って一度頭の中をゼロに戻してアップデートすることが大事になりました。走ることは、一瞬だけ「終わりを忘れたフリをすること」です。

鹿野淳
〈音楽ジャーナリスト〉

1964年生まれ、東京都出身・神奈川県育ち。ロッキング・オン社で『BUZZ』や『ROCKIN'ON JAPAN』の編集長を歴任し、2004年に独立。2006年1月にサッカー雑誌『STAR soccer』を創刊し（現在は休刊）、2007年3月には音楽雑誌『MUSICA（ムジカ）』を立ち上げる。現在は編集／執筆活動のほかテレビやラジオでも活躍し、2014年からは音楽フェスティバル『VIVA LA ROCK』のプロデュースも行っている。

って「走る」とは?

無心で走っていると、いろんなことが、あぶくのように次々と目の前に浮かんできます。その中にときおり、あぶくではない、何か大事そうなものがあり、それをぱっと掴んでメモを取ります。アイディアだったり、表現だったり。その捕獲作業が僕にとってのランニングかもしれません。

道尾秀介〈小説家〉

1975年生まれ。『背の眼』でホラーサスペンス大賞特別賞を受賞しデビュー。『シャドウ』で本格ミステリ大賞、『カラスの親指』で日本推理作家協会賞、『龍神の雨』で大藪春彦賞、『光媒の花』で山本周五郎賞、11年には文学史上初となる5回連続候補を経て『月と蟹』で直木賞を受賞。木村拓哉主演の月9ドラマ『月の恋人』なども手がける。

長らく、身体を疲労させて半ば強制的に眠るための「深夜ラン」こそが、僕にとっての走ることでした。社会人生活に負けず生きていくための抵抗行為がラン。しかし、ある時から、日頃走っている“隣人”たちに興味を抱くようになり、雑誌を作ったりして。そして、今となっては、走ることは色んなひとと対話するいい口実、あるいは、現代の生活様式や都市や文化など、何かを思考するための取っかかりになっています。

上田唯人〈『走るひと』編集長〉

大学卒業後、野村総合研究所に入社。企業再生・マーケティングの戦略コンサルタントとして、主にファッション・小売業界のコンサルティングを行う。2011年に1milegroupを設立し、さまざまな制作やメディア運営に携わる。2014年5月『走るひと』創刊。講演やテレビなど、スポーツとカルチャーに関わる分野で、さまざまな発信を行っている。

僕は予防医療普及協会という一般社団法人の理事をしていますが、そこで大事にしていることのひとつがスポーツです。「人生100年時代」と言われるこの時代に大事なのはボケないことであり、そのためにもスポーツがポイントになります。むしろ、なぜこれまでスポーツにフォーカスしてこなかったのか不思議なくらいです。

堀江貴文〈実業家〉

1972年生まれ。福岡県出身。SNS media&consulting 株式会社ファウンダー。現在は宇宙ロケット開発や、スマホアプリ「TERIYAKI」「755」「マンガ新聞」のプロデュース、また予防医療普及協会としても活動するなど幅広く活躍。

柿沼康二〈書家／現代美術家〉

1970年栃木県矢板市生まれ。東京学芸大学教育学部芸術科(書道)卒業。2006-2007年、米国プリンストン大学客員書家を務める。2013年、金沢21世紀美術館にて個展を開催。2012年春の東久邇宮文化褒賞、第1回矢板市民栄誉賞、第4回手島右卿賞、独立書展特選、独立書人団50周年記念賞、毎日書道展毎日賞(20代で2回)など受賞歴多数。

動物に戻る。子供に返る。真にやるべきことが見えてくる。気合が入ってくる。五感が研ぎ澄まされる。私のランニングにはそんな理由がある。制作前には欠かせないルーティーン。

なんてことない日常の一部。自分の針をゼロに戻す作業が走ることです。毎日が忙しなく、流れが早い。その中で、自身を見失わないように、真っ直ぐ立つことが、自分らしさに繋がる気がしていて。だから、ワタシは今日もいつものコースを走ります。

高山都〈モデル／女優〉

1982年生まれ。モデル、女優、ラジオパーソナリティーなど幅広く活動。趣味は料理、マラソン。「#みやれゴハン」として料理やうつわなどを紹介するインスタグラムが人気。趣味のマラソンでは、横浜マラソン2016を3時間41分で完走の記録を持つ。

元来のだらしない性格から、日常レベルで自分に何も課さなければ、ただ漫然と生きてしまう。ただ、そうして失われることにだけは神経質だから、せめてやれることをやろうとランニングを開始した。その日が特別な1日でなかったとしても、何かのきっかけにはなっているのかもしれない。4、5キロ走るだけで、そんな風に悪くない日々を積み上げることができる。

長畑宏明〈『STUDY』編集長〉

2014年にファッション雑誌『STUDY』を創刊。現在までに本誌6号、別冊4号をリリース。現在は同誌編集長の他、ランニングカルチャー誌『走るひと』では副編集長を務める。また、過去にロックバンド・シャムキャッツのクリエイティブディレクションを担当するなど、様々な分野でフリーのディレクター／編集者としても活動中。

セイコーゴールデングランプリ陸上2019大阪・デカチャレ 報告

文責　普及育成委員会　岸　政智

５月19日（日）にセイコーゴールデングランプリ陸上2019大阪にて、通称デカチャレ（キッズデカスロンチャレンジ）をヤンマースタジアムにて実施いたしました。デカチャレは、国際陸上競技連盟が子ども達のフィジカルリテラシーを向上するために推奨するキッズアスレティックスをベースにしています。それを日本陸上競技連盟がアレンジをして、多くの種目を体験できるようにとのことで、デカスロン（10種目）と銘打ちました。ですから陸上競技の「十種競技」のそれぞれの種目をそのまま行うことや、10種目をこなすことが大切なのではなく、スポーツの基本である「走る」「跳ぶ」「投げる」を楽しく行うことをコンセプトとしています。今年度は、同じヤンマースタジアムで行われた木南道孝記念陸上競技大会、横浜で行われた世界リレーにてすでに実施をしており、さらに福岡で行われる日本選手権でも実施予定です。

当日は、一般財団法人大阪陸上競技協会及び大阪市が募集した、約80名が参加いたしました。

グランプリ当日ということもあり、外国招待選手や日本選手が本競技場やサブトラックに訪れトラック周辺には看板やカメラなどが設置されていました。受付が８時30分から行われ、９時から10時の約１時間で行われました。対象は、小学１年生から６年生までで、学年を考慮した４グループに分かれてデカチャレを体験いたしました。

今回実施した種目は、ケンケンジャンプ、ターゲットスロー、ラダー、ハードルの４種目。走跳投をまんべんなく取り入れ行いました。ラダートレーニングでは走る基本動作を実施後にリレー形式で競争をし、ターゲットスローでは、得点付きの大きな的をテントに張り、そこをめがけて投げ当て、その合計得点で競争するなど、少しでも子ども達が興味を持つような工夫をして実施いたしました。ケンケンジャンプでは、不規則に並んでいるケンステップを左右の足のバランスやテンポに気を付けながら行い、ハードルでは、スポンジ製ハードルをスピードを上げながら走り、リレー形式で行いました。各種目ともに、10分程度の限られた時間ではありましたが、安全で正しい姿勢や動きの中でのフォームを習得することができました。なによりも、競争することで一段と習得に意欲が沸き、盛り上がったように感じました。

器具も子ども用の備品を使用することで、大きさや素材の硬さ、重さなども小学生低学年の子ども達でも怖がらずにチャレンジすることができました。

午後から行われる熱戦の場をグランドレベルに降りることで、競技場の大きさや緊迫感も感じられました。そこで選手と同じ目線で、ピッチに立てたことで、参加した子ども達にとって、あっという間でしたが、とても貴重な経験となったことと思います。

このイベントは、子ども達が「走ること」「跳ぶこと」「投げること」が楽しいと感じることが一番の目的です。日本陸連普及育成員会では、学年や経験を超えて、誰もが安全にデカチャレを体験し、「笑顔になること」それこそが、子ども達が陸上競技に触れる普及の第一歩となるようにと考えております。

最後になりましたが、キッズデカスロンチャレンジを実施するにあたり、ご協力をいただいた、セイコーホールディングス株式会社、一般社団法人大阪陸上競技協会、大阪市、大手前高等学校陸上競技部の皆様に心から厚く御礼申し上げ、報告とさせていただきます。

IAAF世界リレー2019横浜大会 プレイベント

日本陸上競技連盟　強化育成部　普及事業課

世界のトップアスリートがリレーを競う「IAAF世界リレー2019横浜大会」において、より多くの人にリレーおよび陸上競技への興味をもってもらい、自らも体験することによってその楽しさや素晴らしさを知ってもらうために、5月11日（土）・12日（日）の両日、競技会開始前に一般の方々を対象としたプレイベントを行いました。

【SEIKO presents 4x100mR FOR EVERYBODY】

5月11日（土）15：30～16：30、メインスタジアム内にて開催。事前に一般募集を行い187チームの応募があった中、見事当選した36チームと、神奈川陸協、東京陸協から選抜された小学生チーム16チーム、計52チームが、世界リレー出場選手と同じ舞台でリレーに挑戦しました。一般募集からは中学・高校・大学またはその卒業生で編成されたチームや、親子･家族で組んだチームなどバリエーション豊かな参加者が集まりました。また、選抜小学生チームは男女2名ずつのチーム編成で日々の練習の成果を発揮し、小学生の部においては、2組それぞれトップでフィニッシュした2チームに、スペシャルゲストの高平慎士氏、塚原直貴氏からSEIKOデジタルウォッチが贈呈されました。

【TDK RISING STARS CLINIC】

同じく5月11日（土）、16名の小中学生が参加し、バックステージツアーや、大会アンバサダーでもある末續慎吾氏をはじめ本大会出場アスリートの指導によるウォーミングアップ､そしてリレー（4×100mR）を体験しました。

【ASICS presents KIDS DECATHLON CHALLENGE】

5月12日（日）14：40～16：30、メインスタジアム内にて『キッズデカスロンチャレンジ』を開催。このイベントも一般募集を行い、631名の応募者から当選した幸運な88名のキッズが参加しました。日本陸連・普及育成委員を講師として、「ラダースプリント」「シャトルハードル」「ケンケンジャンプ」「クロスホッピング」「ターゲットスロー」の5種目を体験し、最後は、3・4年生、5・6年生それぞれで、チーム対抗リレー「フォーミュラ・ワン」を行い、大いに盛り上がりました。そして参加したすべてのキッズに、ASICSからメダルが用意され、スペシャルゲストの朝原宣治氏、末續慎吾氏、そして講師から一人一人に授与されました。

【10m CHALLENGE ＆ KIDS DECATHLON CHALLENGE】
※オープンイベント

5月11日（土）・12日（日）の2日間ともに、15：00～18：00の間、メインゲート（東ゲート）内イベントスペースにおいて、だれでも参加できる『10mチャレンジ』（10mタイムトライアル）と『キッズデカスロンチャレンジ（小学生以下）』を実施。こちらも日本陸連・普及育成委員が講師となって安全で楽しいプログラムが展開され、未就学児から大人まで、2日間で延べ600名を超える多くの方々に楽しんでいただきました。

以上4つのプレイベントを開催しましたが、各イベントには、大会アンバサダーである、朝原氏、末續氏、高平氏、塚原氏、そしてIAAFアンバサダーのゲイル・ディバースさんらも登場し、参加者と触れ合い、アドバイスし、走る楽しさ、陸上競技の面白さを伝えてくれました。プレイベントに参加した皆さんは、その後、より一層のワクワク感をもって「世界リレー」を観戦していただけたことと思います。

最後に、IAAF世界リレー2019横浜大会プレイベントの開催にあたり、本大会の競技運営をはじめ関係各所の皆様、横浜市様、上記アンバサダー、および日本陸連普及育成委員の皆様には、事前の準備から当日の運営まで、多々ご協力をいただき、全てのイベントが無事、盛況にて終了しましたこと、心より感謝致します。

2019数字で見る陸上競技Vol.1　都道府県公認競技会数

事　務　局

今号より、昨年度に引き続き、シリーズ「数字で見る陸上競技」の連載を開始します。
Vol.1では、2019年5月31日現在の都道府県陸上競技協会公認競技会数を掲載します。

NO	陸協名	公認競技会数
1	北海道	227
2	青　森	75
3	岩　手	56
4	宮　城	50
5	秋　田	75
6	山　形	123
7	福　島	88
8	茨　城	68
9	栃　木	49
10	群　馬	96
11	埼　玉	78
12	千　葉	73
13	東　京	182
14	神奈川	164
15	山　梨	51
16	新　潟	129
17	富　山	47
18	石　川	98
19	福　井	39
20	長　野	121
21	静　岡	84
22	愛　知	124
23	岐　阜	73
24	三　重	61
25	滋　賀	48
26	京　都	92
27	大　阪	205
28	兵　庫	269
29	奈　良	69
30	和歌山	67
31	鳥　取	52
32	島　根	81
33	岡　山	79
34	広　島	151
35	山　口	92
36	徳　島	53
37	香　川	78
38	愛　媛	60
39	高　知	62
40	福　岡	105
41	佐　賀	41
42	長　崎	57
43	熊　本	44
44	大　分	37
45	宮　崎	74
46	鹿児島	44
47	沖　縄	33
合計		4124

大会観戦ガイド

2019.7.1 時点

今年もジュニア・ユース世代の夏が始まります。目指せオリンピアン！若きアスリートたちの活躍を、ぜひ応援して下さい！

令和元年 全国高等学校総合体育大会陸上競技大会 秩父宮賜杯 第72回全国高等学校陸上競技対校選手権大会

▼競技期日：８月４日（日）～８月８日（木）
総合開会式　７月27日（土）
陸上競技開会式　８月４日（日）

▼会場：沖縄県沖縄市比屋根５丁目３番１号
タピック県総ひやごんスタジアム

▼アクセス：
・那覇空港より車で約47分
・那覇バスターミナル約1時間12分　30系統「泡瀬東線」52系統「与勝線」「総合運動公園北口」バス停下車

▼種目：
＜男子＞　21種目
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、110m ハードル、400mハードル、3000m障害物、5000m競歩、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、八種競技
＜女子＞　20種目
100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、100mハードル、400mハードル、5000m競歩、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、七種競技

▼放映予定：
８月３日（金）15：30～16：35　NHK Eテレ　※予定
８月４日（土）15：30～16：35　NHK Eテレ　※予定

▼問い合わせ先：
平成31年度全国高等学校総合体育大会
沖縄市実行委員会事務局　陸上競技担当
TEL：098-932-1294　FAX：098-932-6033
E-mail：ko-soutai@city.okinawa.okinawa.jp
大会ホームページ
https://www.koukousoutai.com/2019soutai/

昨年度の大会の様子

令和元年度　第54回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会

▼期日：８月10日（土）～12日（月）
開会式　８月９日（金）　16：00～
競技会　８月10日（土）　9：30～予定
８月11日（日）　9：30～予定
８月12日（月）　9：30～予定

▼会場：駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場
東京都世田谷区駒沢公園1-1

▼アクセス：東急田園都市線「駒沢大学駅」下車、「公園口」の出口を出て、自由通りを南へ直進、「駒沢公園東口」から入場、陸上競技場（サービスセンター）まで、約15分。

▼種目：
＜男子＞　14種目
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、400mハードル、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投
＜女子＞　11種目
100m、200m、400m、800m、3000m、100mハードル、4×100mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投、円盤投

▼問い合わせ先：全国高等学校定時制通信制陸上競技大会事務局
（都立本所工業高等学校内）
TEL：03-3607-4500
大会ホームページ
http://www.mat.jp/~teitsu/

昨年度の大会の様子

第35回全国小学生陸上競技交流大会

▼競技期日：８月10日（土）

▼会場：神奈川県横浜市港北区小机町3300　日産スタジアム

▼アクセス：
・新幹線・JR横浜線・横浜市営地下鉄「新横浜」駅徒歩12～14分
・JR横浜線「小机」駅徒歩７分

▼種目：
＜男子＞100m、二種競技：コンバインドA（80mハードル・走高跳）、コンバインドB（走幅跳・ジャベリックボール投）
＜女子＞100m、二種競技：コンバインドA（80mハードル・走高跳）、コンバインドB（走幅跳・ジャベリックボール投）
＜混合＞男女混合4x100mリレー

▼問い合わせ先：全国小学生陸上事務局
TEL：050-1746-8410　FAX：050-3588-1869
E-mail：nissincup@jaaf.or.jp

JAAF TOCHIGI 一般財団法人栃木陸上競技協会

〒321-0151　宇都宮市西川田6-4-37
株式会社 鈴和 三階
TEL.028-612-8594　FAX.028-612-8549
http://www.jaaftochigi.jp/

今年度、役員改選があり、令和元年に相応しく新布陣でスタートを切った。３年後は、本県が国体開催県で、その成功の鍵は好成績を収めることか。当然、選手強化を第一課題に、強化スタッフ陣も心新たに動き出したところだ。幸い、Ｕ18の日本代表となった福田奈央選手（作新大学１年）や大島愛梨選手（中央大学１年）＜共に短距離＞などを筆頭に若い有望株も現れ、いよいよ３年後に照準が定まり出し、本県陸上界の飛躍に夢が膨らむ。

工事が進む新スタジアム全景

さて、令和２年４月完成予定の約二万五千人収容の新スタジアム、６月に入り、肝心な走路とフィールドの工事が始まった。スタンド全席屋根付の国内有数の陸上競技場、完成早々、ハンガリー選手団がオリンピック直前合宿、澄んだ青地のタータン上を躍動するはずだ。東京オリンピック、その２年後には国体開催、令和と共に周辺が慌ただしくなってきた。

（文責：理事長　渡邊方夫）

JAAF SAITAMA 一般財団法人埼玉陸上競技協会

〒362-0034　上尾市愛宕3-28-30
上尾運動公園陸上競技場内
TEL.048-771-4248　FAX.048-772-4566
http://sairiku.net/

埼玉陸上競技協会では、３月に役員改選がありました。青葉昌幸会長の再任が決まり、４月より二期目がスタートしました。

競技面においては、本県出身（熊谷女子高校）の岡田久美子（ビックカメラ）選手が来年の東京オリンピックに向けて素晴らしいスタートを切りました。２月の日本選手権20㎞競歩を１時間28分26秒で制して５連覇。５月18日の東日本実業団選手権（熊谷スポーツ文化公園陸上競技場）5000m競歩で20分42秒25の日本新を樹立。好調を維持して６月８日国際陸連（IAAF）競歩チャレンジ･ラコルーニャ大会（スペイン）20㎞では、１時間27分41秒の日本新記録を樹立して６位に入賞しました。従来の日本記録を10年ぶりに22秒更新して、日本人女子初の１時間27分台に突入。今季の世界ランキングで９位と、トップ10入りしました。

岡田選手は、９月に開幕するドーハ世界選手権の女子20㎞競歩に内定しています。この好調さを持続して、世界選手権では世界の高い壁に持てる力を発揮して、来年の東京オリンピックに出場し入賞を目指してもらいたいと思います。

（文責：総務委員会　木村一也）

JAAF GUNMA 一般財団法人群馬陸上競技協会

〒370-0871　高崎市上豊岡町145-5　今井酒店　気付
TEL.027-345-7790　FAX.027-345-7791
http://gold.jaic.org/gunma/index.html

2019年度シーズンもスタートし、４月27日日行われた群馬リレーカーニバルで、審判講習会を開催しました。約350人が参加し、今年度の改正点を確認しました。また、陸上競技の審判は、各部署でいろいろな特性があるので、若手審判に日ごろ自分が担当していない部署をローテーションでまわる試みをしました。講習会参加者からは、「他の部署での特性がよく分かった。」「情報処理・写真判定には、手が出せない」等の声がありました。今年度は、８月23日～25日に関東陸上競技選手権大会、９月13日～16日に全日本マスターズ陸上競技選手権大会が、本県で開催されるので、しっかり準備を進めてまいりたいと思います。

４月に行われたアジア陸上競技選手権大会では、塩尻和也選手（富士通）が、3000mSCで銅メダルを獲得しました。古澤一生選手（前橋育英高校）が、県総体において、５m30（高校２年日本歴代３位）を跳躍しました。

終わりになりますが、昨年８月に元男子走高跳日本記録保持者の富沢英彦氏がご逝去されました。富沢氏は、1971年に２m20の当時日本記録とベリーロール日本最高記録を樹立し、1972年のミュンヘンオリンピックに出場し予選を通過し決勝進出を果たしました。群馬陸協は、富沢氏の功績を称え群馬陸協特別功労賞を授与することにしました。６月に行われた群馬県陸上競技選手権大会にご親族を招待し授与しました。富沢氏のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

（文責：副理事長・総務委員長　永井正樹）

JAAF CHIBA 一般財団法人千葉陸上競技協会

〒263-0011　千葉市稲毛区天台町323
千葉県総合スポーツセンター内
TEL.043-252-7311　FAX.043-252-7314
http://www.jaaf-chiba.jp/

本協会では６月の理事会において役員改選を行い、宇野裕会長及び木内俊秀専務理事の再任を決定いたしました。２期目となる宇野会長体制では陸上王国千葉を合言葉に選手の育成強化に励むとともに、円滑な競技会運営に努め陸上競技の普及発展に努めたいと思います。特にこの秋には千葉県総合スポーツセンター陸上競技場の改修工事が予定されており、トラックの舗装改修、施設設備の更新が行われます。より良い競技環境で参加選手が満足できる競技会運営を目指します。

昨年10月のジュニアオリンピックではＡＢＣ共通女子４×100mRで千葉県チームが優勝し、また令和最初の競技会となった県高校総体では８種目で大会新記録が生まれました。６月の南関東大会ではともに大会新記録で優勝した男子110mHの村竹ラシッド選手（松戸国際高）と男子砲丸投の井上光陽選手（東京学館船橋高）、女子100mと200mの２種目優勝の景山咲穂選手（市立船橋高）などの活躍が目立ちました。これらの若手選手を中心に茨城国体へ向けての体制づくりも進んでおり、総合力で上位入賞が期待されるところです。

さて、昨年10月に開催されたちばアクアラインマラソンでは、快晴の秋空の下約２万人のランナーがコースを駆け抜けました。この大会は第４回を迎えましたが、毎回天候に恵まれ無事に開催されています。次回はオリンピックイヤーの2020年10月を予定しています。多くのランナーの皆様の参加をお待ちしております。

陸協NEWS

JAAF TOKYO 公益財団法人東京陸上競技協会

〒160-0021　新宿区歌舞伎町1-28-3　武井ビル5F
TEL.03-3203-6123　FAX.03-5292-0196
http://www.toriku.or.jp/

今年６月に理事・監事の改選が行われました。女性役員の選出を義務付、多くの人たちの意見を反映していく体制づくりをスタートさせました。２年毎に選ばれた人たちが公認競技会はもちろんのこと、都民の方々のスポーツ文化発展のためにまたより良い事業運営ができるよう頑張っていただいています。

普及・強化事業も東京、長崎、和歌山、岩手、愛媛、福井国体と連続で、天皇盃、皇后盃の獲得に係わるような安定した成績を残すようになってきました。本年も茨城国体に向けて、競技者の育成強化を進めてまいります。

2019年度も東京陸上競技選手権を中心に主催大会７大会の開催、加入団体との共催、後援で200を超す大会への審判員派遣、運営協力をしていきます。また、新国立競技場の公開も見えてきました。東京オリンピック・パラリンピック2020に向けて全国規模の大会も東京で開催するなどの予定に、今までの経験を活かし大会を盛り上げていきたいです。

一方、「東京のスポーツ文化発展のため」の旗印を掲げ、多くの都民が陸上競技を通して健康で、明るく楽しい生活づくりに力を出せるように、いろいろなイベントを実施しています。2020はいろいろなスポーツが会場の取り合いであり、陸上競技場も多目的スポーツ競技場になっており、陸上競技の開催も厳しくなってきました。

（文責：有澤政雄）

JAAF YAMANASHI 一般財団法人山梨陸上競技協会

〒400-0024　甲府市北口2-14-14　山梨文化会館東館内
TEL.055-251-4581　FAX.055-251-4581
http://yamanashitf.web.fc2.com/

山梨陸上競技協会では５月に評議員会・理事会を開き平成30年度決算・事業報告と令和元年度の事業計画・予算・新役員承認を得て新たなスタートを切った。

今年度は一般財団法人として７年目、そして山梨陸協が昭和４年に創立して90周年を迎える。新しい半田昌一専務体制の下で組織基盤の確立と選手の競技力強化また財政基盤の健全化を意識し、「山梨はひとつ」の合言葉のもと更なる向上を目指し各種事業に全力で取り組んでいく。また１年後に迫った2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて確固たるプランを持って活動を進めていく必要もある。

選手強化においては、本年度インターハイ南関東大会ではやり投で鈴木凛選手が優勝、走幅跳で古屋日奈子選手が２位、3000mSCで中込空選手、三段跳で萩原けい奈選手が３位、関東インカレでは、1500mで飯澤千翔選手が優勝、ハーフマラソンで宮下隼人選手、三段跳で剣持クリア選手が２位、九州インカレでは十種競技で市川翔太選手が優勝等の活躍があり、強化委員会の方針は着実に前進している。

この後、日本選手権では1500mの飯澤千翔選手、400mHの野澤啓祐選手、砲丸投の須田裕太郎選手、100m・200mの斎藤莉奈選手、1500mの飯野摩耶選手、三段跳の剣持早紀選手・剣持クリア選手が山梨陸協の代表としてチャレンジしていく。

令和元年度・２年度役員

会　　長　野口　英一
副 会 長　渡辺　　悟、望月三千雄、保坂　一仁、矢崎　文博
専務理事　半田　昌一

（文責：保坂一仁）

JAAF KANAGAWA 一般財団法人神奈川陸上競技協会

〒231-0012　横浜市中区相生町1-18　光南ビル５F-B
TEL.045-210-9660　FAX.045-210-9667
http://www.kanagawariku.org/

競技運営委員会情報処理部

情報処理部は、平成10年（1998年）かながわ ゆめ国体を契機として発足した、神奈川陸協の中にあっては比較的新しい専門部です。ルールを理解しているだけでなく、IT関連の知識も必要とされるという特殊な面もあります。

現在、運営システムを使った競技会運営が主流となっていますが、そのシステムの事前準備や運用が情報処理部の主な担当業務です。神奈川県で開催されるジュニアオリンピック等の全国規模の競技会では、資格審査・プログラム編成会議への参画に始まり、運営システムの情報機器や通信機器の設置計画の作成、それらの機器の設置・動作確認も行っています。また、運営システムに使いたい機能が備わっていない場合は、それを補完する仕組みを用意し、資格審査・プログラム編成会議や競技会が滞りなく進められるよう尽力しています。

今後も、「アスリートファースト」の理念に基づき、競技者に「参加してよかった」と言っていただける競技会のために、各部署と連携・協力しながら担当業務を的確に進めていく所存です。その連携・協力の一環として、審判部が実施している係別の研修会に情報処理部も加わり、運営システムの情報機器に関する操作等を、より多くの審判員の方に理解していただくことを考えています。

（文責：情報処理部長　奥村勇一）

JAAF NIIGATA 一般財団法人新潟陸上競技協会

〒950-0933　新潟市中央区清五郎67-12
デンカビッグスワンスタジアム内
TEL.025-257-7636　FAX.025-257-7691
http://www.nrkk.net/

本年度新潟陸協は役員改選の年度であり、６月２日（日）に評議員会・理事会を開催し、新たに評議員・理事が選任され、三期目を迎えた大橋会長の下、新体制で令和元年の事業をスタートしたところであります。

トラック＆フィールドのシーズンも本格化し全国大会に向けて、各年代で予選会が繰り広げられています。過日、南部九州総体2019の出場権を懸けて北信越大会が開催され、新潟商業の女子４×100mRの北信越新を筆頭に多くの種目で全国大会での入賞が期待される活躍でした。

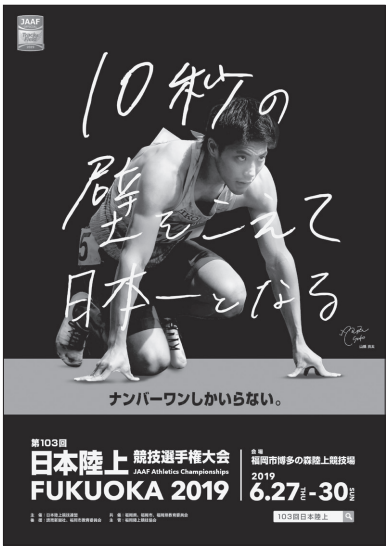
また、日本学生個人選手権において、男子走高跳・渋谷蒼選手（新潟医療福祉大）、女子400mH・小林茜選手（福島大）の全国大会で自身初となる優勝を含め、多くの本県出身者が入賞し、大学進学後に全国の舞台で活躍する姿が当たり前になった感があり嬉しく思っています。

今年度秋に日本グランプリシリーズとしてDenka Athletics Challenge Cup2019が新潟で初開催されます。日本のトップ選手に最高のパフォーマンスを発揮していただくともに、これを機に新潟の陸上熱が更に高まるよう新潟陸協上げて全力で開催に向けての準備を進めております。今秋新潟の地で皆さまにお会いできることと楽しみにしております。

（文責：総務部長　岩﨑雄一）

事務局からのお知らせ

◇◆第103回日本陸上競技選手権大会の熱戦をもう一度！◆◇



今秋開催のドーハ世界選手権の日本代表選手選考競技会を兼ねて開催された、第103回日本陸上競技選手権大会。今年の舞台は、福岡県福岡市、博多の森陸上競技場！
選手達の熱戦をぜひ、もう一度ご覧ください！

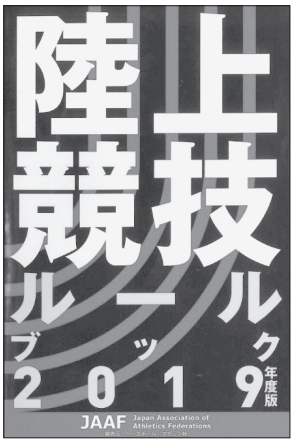
▼大会４日間ライブ配信実施しました！
https://www.jaaf.or.jp/jch/103/news/article/12789/

▼第103回日本陸上競技選手権大会特設サイト
https://www.jaaf.or.jp/jch/103/
今秋開催のドーハ世界選手権の日本代表選手選考競技会を兼ねて開催された、第103回日本陸上競技選手権大会。今年の舞台は、福岡県福岡市、博多の森陸上競技場！
選手達の熱戦をぜひ、もう一度ご覧ください！

◇◆陸上競技ルールブック2019年度版を、全国の書店、ネット書店で販売中◆◇

陸上競技関係者や愛好家のための2019年度版ルールブックが発売中です。
修改正のあった国際及び日本国内陸上競技ルールを反映し、すべてのルールのほか競技場の仕様、全国の公認陸上競技場一覧などを掲載しているルールブック。

お近くの書店にない場合は、電話またはホームページからもご購入いただけます。
お電話でのご注文の場合：0120-911-410（ベースボール・マガジン社 受注センター）
※受付時間　月曜日～金曜日　10:00～12:00、13:00～16:00（祝祭日を除く）
ホームページからご注文の場合：ベースボール・マガジン社のウェブサイトへ。
http://bookcart.sportsclick.jp



陸連時報編集委員

◇編集委員
横川　浩（陸連会長）
友永　義治（陸連副会長）
八木　雅夫（陸連副会長）
尾縣　貢（陸連専務理事）
麻場　一徳（陸連強化委員長）
風間　明（陸連事務局長）
高橋　克実（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者
大嶋　康弘
◇時報編集担当
繁田　進
石塚　浩
木越　清信
宮田　宏
廣瀬　静香

陸連時報編集室
〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト http://www.jaaf.or.jp/
公式動画サイト http://japanathletics.tv/